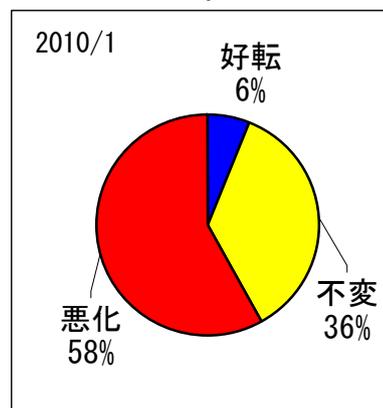
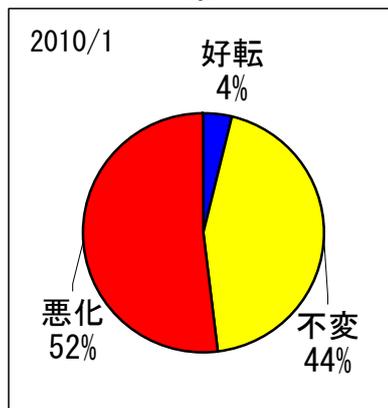
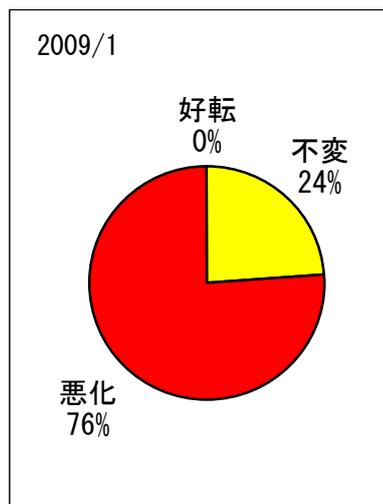
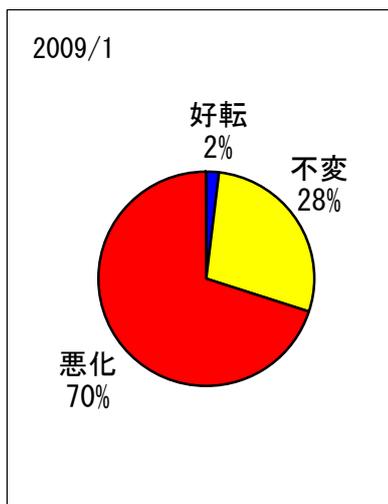
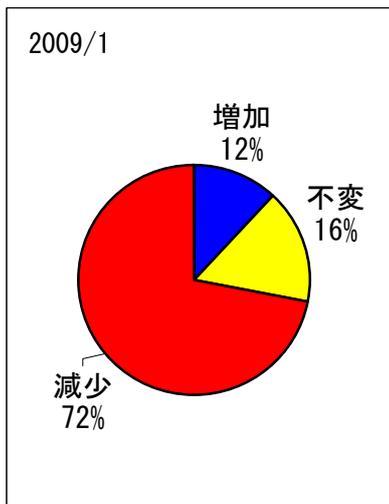


データから見た業界の動き (平成22年1月分)

売上高 (前年同月比)

収益状況 (前年同月比)

景況感 (前年同月比)



■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

区 分	製造業			非製造業			合 計		
	09/1	09/12	10/1	09/1	09/12	10/1	2009/1	2009/12	2010/1
対前年,前月,当月									
売 上 高	-60	-50	-45	-60	-50	-23	-60	-50	-32
収 益 状 況	-75	-55	-50	-63	-50	-47	-68	-52	-48
景 況 感	-80	-65	-45	-73	-60	-57	-76	-62	-52

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

■ 概 況

本県の1月の景況は、全業種のD I値では、売上高-32（前年同月比+28）、収益状況-48（前年同月比+20）、景況感-52（前年同月比+24）と依然としてD I値はマイナス水準であるものの、前年同月比、前月比ともに全項目においてポイントが改善傾向にある。

業種別のD I値で見ると、製造業は、売上高-45（前年同月比+15）、収益状況は-50（前年同月比+25）、景況感-45（前年同月比-35）と、売上高、収益状況、景況感ともにポイントの改善が見られ、前年同期比と前月比で、全ての項目で改善傾向にある。

非製造業でもD I値は、売上高-23（前年同月比+37）、収益状況-47（前年同月比+16）、景況感-57（前年同月比+16）と前年同月比と前月比で、全項目においてポイントの改善が進んでいる。

政府発表の1月の月例経済報告では「景気は持ち直してきている」との基調判断を6ヶ月連続で据え置いたものの、失業率が5%台と高いこと、産業全体で設備投資が横這い状態であることを受け、国内経済は、依然厳しい状況で自立的な回復には至っていないとしている。

一方、本県の1月の景況は、前年同月比、前年比ではともにD I値が改善傾向にあるものの、依然としてD I値は低い水準で推移している。

各業界の連絡員からの報告では、受注が少ない現状や見通しが立たない状況への不安などが多く見受けられ、依然として県内中小企業を取り巻く環境は厳しい状況であり、「景気が持ち直している」実感を得ることは出来ない。

■ トピックス

今回は、昨年(21年)と比較した今年(22年)の各業界の景況感(予測)について聞いた。

この調査では、昨年と比べて「良くなる」「変わらない」「悪くなる」から選択してもらい、その理由を簡潔に書き添えてもらった。結果は次のとおり。

製造業では20組合(連絡員20人)中、「良くなる」との予測が、わずか2組合、「変わらない」が6組合、これ以外は全て「悪くなる」との予測であった。

非製造業30組合(連絡員30人)中でも、「良くなる」との予測が2組合、「変わらない」が1組合となり製造業と同様、圧倒的に「悪くなる」との予測が上回る結果となった。

「悪くなる」とした予測の製造業・非製造業の共通の理由としては、「景気の見通しが全く立たない」、「個人消費の低迷が続いている(さらに減退する)」、「政治不信」などが多く、「変わらない」とした理由では「政府の経済対策に期待がもてない」「政府の政策が優柔不断・信頼できない」と新政権の政策への不満が表れた結果となった。

また、最も少数となった「良くなる」との予測理由のすべては、それぞれ業界独自の動向から得られる需要への期待感であると思われ、この全体の結果からも、22年度も厳しい経済環境が続くと各業界の判断予測が明確となった。

■ 業界の声

【製造業】

●**食料品（水産物加工）**／消費マインドが低迷。特に高価格帯の商品が低調で、売上は前年同月比97.1%。

●**食料品（洋菓子製造）**／今年は年回りが良好で結婚式向けの需要増が見込まれ、前年同月比326%と順調だが、国内での消費減速もあり、全体での売上は前年同月比106%。

●**食料品（製麺）**／今まで組合運営の中心を担っていた組合員の引退や高齢化が見られる。

●**繊維・同製品（織物）**／老舗デパートの撤退が相次いで発表された。商談の決定スピードが遅くなっている。国内の生産調整は進んでいるが、在庫は多い。借入資金の底が見えだした企業が多い。

●**木材・木製品製造**／木材販売は何とか去年を上回ったがプレカット加工は大幅に減少。今年の住宅着工は去年より少なくなると予測されるため、何か違った方向を思案。

●**家具製造**／デフレ経済からインフレ経済への思い切った改革が必要。

●**紙・紙加工品**／前年並みで推移。原燃料価格は前月上昇中。

●**印刷**／経済全般が冷えているので、なかなか思うようにいかない。

●**窯業・土石（砂利）**／河川工事が大量に発注されたことが、売上高増加の大きな要因。収益状況については、原料（特採原石）高の影響で売上高が増加した割には改善されていない。資金繰りは一時的には好転した。業界の景況については好転のまま年度末まで推移していく見込み。

●**窯業・土石（生コン）**／昨年と比べ落ち込んだ。2月も出荷予想では昨年より20%程度落ちると予想。生コン出荷時に出す伝票様式も法規が変わり、4月より新しくなる。その際工場の機器の変更を伴い、費用が増加する。

●**鉄鋼・金属**／デバイス関連が増産になったが、建築等は低迷のまま。

 昨年の同時期よりかなり急激に落ち込んだ。一昨年の好調期に比べ5～6割程度の受注量。

●**一般機器**／少しずつ受注があるが、まだ休業をする日がある。

●**電気機器**／年が変わり、若干引き合いが増えたと感じるが、成約まで至らずとの共通意見である。

 半導体関連は、価格面では厳しいが、仕事量の増大により、多忙。多種少量の部品は短納期、買ったときは依然変わらず、むしろ悪化の傾向。納入後において、値引き要請があり、商売としては成り立たない。実体経済の悪化により、廃業やリストラが増大していくと予測。

●**その他（貴金属）**／卸売のシステムが機能していない状態。小売も一般店また百貨店の落ち込みが激しく、業界全体が委縮している。全体の底上げが必要。

 不況が長く続くと企業だけでなくそれを支える下請の業者（職人）も転職を考えざるを得ない。地場産業といわれる宝飾業界だが、見通しは全く暗い。

【非製造業】

●**卸売（紙製品）**／中国の需要が増えつつある為、余剰感は無くなってきた。併せて国内発生が景気動向により下落している。このため、仕入れ競争が一部で始まっている。他の要因としてはアメリカ向け古紙の輸出経費高、国の補助削減等により中国輸出の減少もある。

●**卸売（宝飾）**／個人消費の落ち込み。雇用不安。生活不安など多くの問題が解決していない。経済悪化の下げ止まりが見えないままでは現状の回復は厳しい。

●**小売（SC）**／新規出店店舗の好況が全館の売上げを底上げして、開店後2ヶ月を経た今も好調を維持している。弊社にとって弱いとされている冬季にもかかわらず平常売上げの底が見えた感じがある。一方、個店のオペレーションがうまく行かず、厳しい店も始まった。

●**小売（食肉）**／年末の活気が一気に冷え込み、客数・客単価ともに昨年を割り込んだ。また、デフレ状況に押され小売価格・卸売価格が押さえられ収益があがらない。また、現金客が減少し、資金繰りもきびしい現状。

●**小売（水産物）**／中小小売業の淘汰の流れに変わりはなく、大手資本の県内進出はその流れを加速している。

●**小売（事務機文具）**／販売価格のダウンが今後も続きそう。

●**小売（石油）**／年初の原油情勢は、世界各地での強い寒波が国内需要増を押し上げ、また原油高と為替レートの円安、ドル高によるコストの上昇により、ガソリン・軽油・灯油の3油種とも5円程度の値上げとなった。2月はガソリン価格は据え置き、軽油・灯油は値下げとなると予想。なお、ドバイ産原油1バレル80ドルは1年3ヶ月ぶりの大台である。

●**商店街**／冬のボーナスの減少による消費者の購買力の低下により、売上ダウン。また大型店の早めのバーゲンセールにより客足が遠のいた。飲食店はインフルエンザの影響で客足が前年同月より2割減。

●**不動産取引**／停滞、減少傾向が続いており、組合員数、宅地建物取引業者数は減少の一途である。

●**宿泊業**／ネット予約が盛んになると、客が非常に価格に敏感に反応していることがわかる。料金の僅かな上下で予約の入り方が違う。稼働率を上げるため料金を下げているところもあるが、一方で利益が上がらないというジレンマに苦しんでいる。

業界の厳しい状況はまだまだ続くことが予想される。その中で経費を見直さなければならぬ。この業界の24時間営業という形態の中で、どのようにおもてなしの心をとおろそかにせず、雇用を維持できるのかに苦慮。

観光業全体の売上高の減少は全く止まらない。このままの状況が続くと持ちこたえられない施設が出てくるのではと危惧。景気の底上げが欲しい。

●**美容業**／依然として消費者の財布のひもは固く、本来なら1年の中で年末年始は最も忙しいが、今月は例年以上に悪かった。

●**自動車整備**／エコカー減税による買換需要は促進されるが、それ以外は全く低調なため、景気はさらに悪化する。

●**建設業（総合）**／年度末に向けて工事発注は増えているが、大型工事が多く、1000万円前後の小規模工事の発注が少ないため、小規模零細事業者には厳しい。

●**建設（住宅関連）**／雇用と賃金の状況が良ならないため住宅の購買意欲が湧かないようだ。

●**建設業（型枠）**／民間工事が極端に少ない今、数少ない公共工事に多くの業者が集まり、極端に安い単価で仕事を受ける業者も多い。今後年度末を迎え、土木工事を主にしてきた業者も仕事なくなり、より厳しい時代を迎えると予測。

●**建設業（鉄構）**／建築工事は、かつてない危機的な状況にあり、組合員各社の経営体力の消耗を危惧する声も大きくなってきている。

●**設備工事（管設備）**／水道施設の品質向上により、修理工事が減少している。比例して共同購買事業の材料販売高も減少している。住宅着工件数が増加しない限り、経済状態は改善しないと思われる。

●**運輸（タクシー）**／1月の売上は昨年と同じ。タクシーの利用者の減少が目立ち、景気が良くなる見通しはまだまだのようである。

●**運輸（バス）**／もともとオフシーズンだが、少ない仕事が更に減っている。軽油も値上がり。春の観光シーズンまで忙しくなることはないとする。